

1-5					
主題		自分らしく生きる			
副題		輝きよ、もういちど			
キーワード 1	自分らしく	キーワード 2	なし	研究(実践)期間	3ヶ月

法人名・事業所名	社福) マザアス 小規模多機能ホームみなみだいら
発表者(職種)	山下亮(介護支援専門員)、小野久美子(介護職員)
共同研究(実践)者	田中仁章(介護職員)

電 話	042-594-5780	FAX	042-594-5781
-----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	平成 20 年開設の東京都日野市の小規模多機能ホーム。社会福祉法人マザアスのサテライト施設として地域密着型のサービスを提供している。住宅地奥に立地し、木々が立ち並んだ静かな環境のもとで、利用者お一人おひとりの状況に合わせて、住み慣れた場所で最後までその人らしく生活が出来るよう支援している。
-------	---

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

小規模多機能ホームみなみだいらには、独居でご家族がいない、または家族が本人の生活状況を把握していない方が多く利用している。したい事と出来る事のギャップをその方自身が受け入れられていないケースが多く、本人がサービスの必要性を感じていない状態から関わりが始まる。

1 つ目の事例は、ご家族からの勧めでデイサービスに通ってはいるが、本人が通う事に意味を見いだせていない、最近休みが目立ってきた方。既存のレクリエーションに参加してもいまひとつ乗り気でない。

2 つ目の事例は、生活全般自立しているが、自宅に帰れない事がある、お金の減りが早い、失火の恐れがある等の理由で支援を開始した方。自宅に食べ物が無い事や他者と接点が無いことが課題として挙がった。配食や通いを提案した。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

関わりを通してサービスの必要性を感じていない方への取り組みと、本人らしさ・したい事に寄り沿った結果得られた気づきを2つの事例を元に発表する。小規模多機能ホームの特性を生かした取り組みでどう在宅生活を支える事が出来るのか、事業所全体で考えるきっかけを作ることを目的とした。

《3. 具体的な取り組みの内容》

1 つ目の事例に対し、やりたい事が無いものと思い込んでいた方との会話の中からニーズを感じ取り、新たなレクリエーションを取り入れた。実施するにあたって本人の性格も考慮して誘い方を工夫し、自発的に参加できるようにした。

2 つ目の事例に対し、どの部分に支援が必要なのかを知る為に、時間を定めずに日々訪問する事とした。

《4. 取り組みの結果》

1 つ目の事例は、その方はかつて家事や趣味としていた事だけに、表情に今までとは違う輝きがあった。興味はあったが何かしらの理由で出来なくなっていた、あきらめていた事が、少し人の手を借りる事で実現できた。参加しやすい雰囲気作りも本人に合っていた。

2 つ目の事例は、時間を定めずに訪問する事で生活の実態だけでなく本人の性格も見えてきた。本人が何を望みどう暮らしたいかを知り、当初考えていたサービスが本人の生活に当てはまらない事に気付いた。今の生活を見守るスタンスに切り替えた。

《5. 考察、まとめ》

1 つ目の事例については、利用者さん発信で生きがい、やりがいを感じられるものを提供していきたいという姿勢の大切さを学んだ。

2 つ目の事例については、最期まで在宅で過ごすにはどうしたらいいのか、生活に不自由さが生まれた時、提案できる場所はあるのか。今後の課題が見えてきた。

したい事と出来る事のギャップや、年齢と共に出来なくなった事により意欲を失いかけている方たちが「その方らしさ」を取り戻し、少しでも楽しく充実した日々を送れるような支援を心がけたい。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

「自分らしく生きるために 福祉の現場からのヒント」（2001 年発行）

黒沢貞夫、一橋出版

《8. 提案と発信》

小規模多機能ホームの知名度が低い。通い、宿泊、訪問を一体的に行なえるだけではなく、地域密着型のサービスとして、在宅生活を送る為にいかに柔軟な対応が出来る機関かという事を広く宣伝したい。